

台風のためお天気が心配でしたが、曇り時々晴れ、微風が心地いいトレッキングになりました。今日は、木地師の里を訪ねる山行です。来週予定してます駒ヶ岳・与助谷山・桜谷山の縦走トレッキングは高島市朽木地区の木地山集落から登ります。高島（市）郡に移り住んだ轆轤師は、小椋庄の蛭谷より、領主朽木氏の命を受けて、館内の材木を伐採、盆、椀などの木地を造った。木地山では、ブナ・栃・桂・イズクメ・樺・クロマメの6種の木が伐採されたそうです。さて、天狗堂は登山口に新しいエコトイレが設置され、とても気持ちよく利用させていただきました。また、登りも下りも急坂でしたが、ロープがあり、階段状に丁寧に登山道を作っていただき地域の心温まるおもてなしを感じる旅になりました。特に登りは岩場もあり、足場を慎重に確認しながらでしたが、予定より30分ほど早くつきました。下りもなかなか急坂。周りの樹木にお世話になりながらゆっくり下山。予定通り御池林道に下山。林道には、アケボノソウのお花がたくさん咲いていて感動、「最近、減ってきているね。ここは凄いな・・・」など楽しみました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の日でした。（2ページ）

◆歴史

木地師発祥の地、東近江「小倉谷」

小倉谷は、山間部の奥永源寺地区にあり、君ヶ畑、蛭谷、箕川、政所、黄和田、九居瀬の6町で構成。平安時代には、分徳天皇の第一皇子の惟喬（これたか）親王が村人にろくろの技術を伝えたのが始まりとされており、小椋谷の木地師が良材を求めて各地に移り住んで文化や技術を広め、日本の木工文化の礎になったという。

木地師の祖神として惟喬親王を祭った大皇器地祖神社や筒井神社、惟喬（これたか）親王が暮らし「高松御所」と呼ばれる今龍寺などがあり、それらの社寺が各地の木地師からの要請に応じて往来手形や免除を発行し、木地師と移住先との紛争解決にあたるなど木地師の保護と統制を行ってきた。

◆トレッキングの様子



新しいトイレ 大皇器地祖神社 みなさん、元気いっぱい 巨木が多く魅了されながらきれいな樹林を行く



木洩れ日、微風が気持ち良い 足元に注意して。 気を引き締めて ロープに感謝して



天狗堂山頂にて 展望台にて 眺望 下山は御池林道へ 急坂を下ることずっと

◆自然観察



アキチョウジ



アザミ



クサギの実



ミズヒキ



ヨウシュヤマゴボウ



シロヨメナ



お茶の花



ベニバナボロギク



キッコウハグマ



ツルリンドウの実



アキノキリンソウ



マムシグサ



キクラゲ



クルマバハグマ



アケボノソウ



ナギナタコウジュ



クサギの花と実